

# 日本大学の現況と課題

—全学自己点検・評価報告書2015—

(大学・短期大学部・専門学校)

## 点検・評価結果及び改善意見 【短期大学部 [湘南校舎]】

## 目 次

基準Ⅰ	理念・目的	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準Ⅱ	教育研究組織	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準Ⅲ	教員・教員組織	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準Ⅳ	教育内容・方法・成果	エラー! ブックマークが定義されていません。
IV-1	教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針	エラー! ブックマークが定義されていません。
IV-2	教育課程・教育内容	エラー! ブックマークが定義されていません。
IV-3	教育方法	エラー! ブックマークが定義されていません。
IV-4	成果	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準Ⅴ	学生の受け入れ	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準Ⅵ	学生支援	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準Ⅶ	教育研究等環境	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準Ⅷ	社会連携・社会貢献	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準Ⅸ	管理運営・財務	エラー! ブックマークが定義されていません。
IX-1	管理・運営	エラー! ブックマークが定義されていません。
IX-2	財務	エラー! ブックマークが定義されていません。
基準Ⅹ	内部質保証	エラー! ブックマークが定義されていません。
重点項目1	修学継続支援, 学修意欲の喚起	エラー! ブックマークが定義されていません。
重点項目2	国際交流	エラー! ブックマークが定義されていません。

## 基準Ⅰ 理念・目的

### 1. 現状の説明

#### 1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

##### [評価の視点]

- ・ 大学の理念・目的，及びそれに基づく学部・研究科等の理念・目的の明確化
- ・ 個性や特徴の確立化
- ・ 大学の教育理念「自主創造」の能力を持つ人材の育成

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，人口増加の状況を迎えている社会のニーズを見据え，従来の農学科と生活環境学科を統合した「生物資源学科」を2007年度からスタートさせた。「豊かで，持続性のある社会」を構築するために欠かせない，食料の確保・供給，生物資源の生産，生命の科学，環境問題への対策，利用から流通までを横断する多彩なカリキュラムを設定し，幅広い視野から多種多様な課題をとらえ，時代の動きに即応できる人材の育成を目的としており，理念・目的とを明確化している。そして，教育システムとしては，選択科目を多く配置し，基礎科目を修得した上で，自らが将来の方針に沿って自由に専門科目を履修できる用になっている。その方法は，1年次から研究室に所属し少人数教育を活用して，基礎から応用まできめ細かい個別指導を行うため，1年次にゼミナールⅠ，2年次にゼミナールⅡを配置し，さらにフィールド科学概論，フィールド科学実習を配置して生物資源学を体験的に学習できるようにしている。これによって多様な学生への対応が可能となっている。

#### 2 大学・学部・研究科等の理念・目的が，大学構成員（教職員及び学生）に周知され，社会に公表されているか。

##### [評価の視点]

- ・ 構成員に対する周知方法と有効性
- ・ 社会への公表方法

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，短期大学部生物資源学科ホームページに教育コンセプトとして記載して学生・教職員とともに社会への周知も行っている（資料1-1）。

また，学部ホームページの「教育情報」には，学科の教育研究上の目的を明示して周知を図っている（資料1-2）。

#### 3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

## [評価の視点]

- ・ 理念・目的を検証する責任主体，検証体制・方法

### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，組織による定期的な検証は行っていない。しかし，毎年実施している新入生による「卒業後の進路希望アンケート調査」の結果から，学科の教育コンセプトの整合性が検証できる。それによるとミスマッチが少なく，理念・目的の適切性は妥当と評価される。

## 2. 点検・評価

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，教育理念や目標が周知されていることから志願者が多く，志願者倍率は約2倍，収容定員充足率は1.10となっている。

## 3. 将来に向けた発展方策

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，カリキュラム改正後の完成年度の前年から，カリキュラム改正後の検証と次期カリキュラムへ向けての検討を実施しており，その内容の検証と共に学科の教育理念や目標との整合性，あるいは受験生の希望や社会的ニーズとの整合性を検討し，それを教育に反映させている。

## 4. 根拠資料

- 1-1 短期大学部生物資源学科ホームページ  
[http://www.brs.nihon-u.ac.jp/education/junior\\_college\\_jb.html](http://www.brs.nihon-u.ac.jp/education/junior_college_jb.html)
- 1-2 生物資源科学部ホームページ  
教育情報 <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/>

## 基準Ⅱ 教育研究組織

### 1. 現状の説明

1 大学の学部・学科・研究科・専攻及び附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

#### [評価の視点]

- ・ 教育研究組織の編制原理
- ・ 理念・目的との適合性
- ・ 学術の進展や社会の要請との適合性

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、学科の基本教育コンセプトである「資源生産科学」「生命科学」「環境科学」「資源利用科学」の専門科目と一般教養科目の履修可能な体系の構築を教育研究組織編制の原理としている。

短期大学部専用の校舎は、生物資源科学部のキャンパス内にあり、同学部の教育研究施設を共同利用している。

2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

#### [評価の視点]

- ・ 教育研究組織を検証する委員会等の設置状況、運営状況

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、生物資源科学部と基本的に一体となっているため、短期大学部に特化された委員会は4委員会のみある。学部委員会において短期大学部と関連のあるものは、短期大学教員の構成員とし、必要に応じて、短期大学部の内容も検討事項としている。各委員会の検討結果は、学部教授会または短期大学部教授会において報告又は審議される。

### 2. 点検・評価

#### 1 効果が上がっている事項

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、生物資源科学部教員と短期大学部教員の共通意識を醸成している。

#### 2 改善すべき事項

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，短期大学部の関連委員会が多く，過重な負担を強いている。

## 基準Ⅲ 教員・教員組織

### 1. 現状の説明

#### 1 大学として求める教員像及び教員組織の編制方針を明確に定めているか。

##### [評価の視点]

- ・ 教員に求める能力・資質等の明確化
- ・ 教員構成の明確化，編成方針の共有方法
- ・ 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，人事は「日本大学生物資源科学部教員の採用，昇格及び再任に関する内規」（資料3-1）に準じて行われている。入学生の多くは，生物資源科学部への編入希望であるため，教員は，短期大学独自の教育研究のほかに，編入のための教育，とくに基礎学力付与の能力も求められている。そのため，教員は，専門科目教員9名のほかに総合教育科目教員3名を配置しており，設置基準数を充足している（資料3-2）。新入時より学生を希望の研究室に所属させ，教員は卒業まで責任を持ってきめの細かい指導を行うシステムをとっている。

#### 2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

##### [評価の視点]

- ・ 編制方針に沿った教員組織の整備
- ・ 法令に定める必要専任教員数の確保，年齢構成バランスの適切性
- ・ 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
- ・ 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置（修士，博士，専門職）

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，1教員1研究室の制度を取っていることから，教員組織は，設置基準数を基本として，社会の変化にともなって柔軟に対応している。専門科目及び総合教育科目それぞれの担当教員の適合性は，「日本大学生物資源科学部教員の採用，昇格及び再任に関する内規」（資料3-1）にしたがって短期大学教授により審査されている。

#### 3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

##### [評価の視点]

- ・ 教員の募集・採用・昇格等に関する規程及び手続きの明確化
- ・ 規程，内規等に従った適切な教員人事
- ・ 本学の教育者・研究者としての適性を図るための審査・選考

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、「日本大学生物資源科学部教員の採用、昇格及び再任に関する内規」に準じてすべての人事は行われている。採用、昇格及び再任は、短期大学部教授の署名捺印の申請書を学科長が学部提出する。申請書をもとに人事委員会で協議し、適格と認められたものは、さらに学部長と人事委員会の面接を経て、短期大学部教授会で審議して決定する。日本大学の教育者・研究者として適格性については、学部長・人事委員会の面接において十分に審査されるとともに、学部長より本学における教育の理念・目標「自主創造」について訓示される。

#### 4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

##### [評価の視点]

- ・ 教員の教育・研究，学内運営，社会貢献等の活動状況に対する評価の実施
- ・ ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、教員の教育研究活動等の組織的な評価は実施していない。しかし、学部のホームページ（資料3-3）を通じて全ての教員は各自Webにより日本大学教員システムに登録していて、その結果は、全学期末監査や大学基準協会の監査の際に使用される。いっぽう、学生による教員の授業評価は授業アンケート（資料3-4）により実施し、結果を数値化して、教員へフィードバックし、教員自身による評価の資料としている。また、専任教員と非常勤教員による教育懇談会を開催し、学生の成績から進路までの解析等を行うことにより教育方法について議論している。教員の資質の向上を図るための方策としては、日本大学FD推進センターと一体になって学部のFD活動を推進することにある。日本大学FD推進センターより発行のLearning guideを全教員に配布するとともに、日本大学FD Newsletterを全教員へ周知徹底した。FD活動としては有効的には機能しているとはいえないため、FD講演会を全教職員向けに開催予定であり、学外及び日本大学としてのFD活動の取組みについて、教員の意識を高めることを行う。

## 2. 点検・評価

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、FD活動を積極的に行っているため、所属教員間における学生の教学に関する事項について共通認識が形成されている。短大学生の80%以上は、4年制学部への編入学を希望しているため、それに対応した学生の指導に効果が上がっている。

専門科目教員は、学部教員と同等の審査を受けており、業績の向上が認められる。

### 2 改善すべき事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]



短期大学部湘南校舎では、FD活動としては有効的には機能しているが、FD講演会を全教職員向けに開催予定であり、学外及び日本大学としてのFD活動の取組みについて紹介する。

### **3. 将来に向けた発展方策**

#### **1 効果が上がっている事項**

##### **〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎では、FD活動を積極的に行っているため、所属教員間における学生の教学に関する事項について共通認識が形成されている。

#### **2 改善すべき事項**

##### **〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎では、将来に向けた発展方策としては、学外及び日本大学としてのFD活動の取組みの導入を行う。

### **4. 根拠資料**

- 3-1 日本大学生物資源科学部教員の採用，昇格及び再任に関する内規
- 3-2 学部教員一覧
- 3-3 生物資源科学部ホームページ  
研究者情報 <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/research/researchers.html>
- 3-4 授業アンケート

## 基準Ⅳ 教育内容・方法・成果

### Ⅳ－１ 教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針

#### 1. 現状の説明

##### 1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

###### [評価の視点]

- ・ 学士課程・短期大学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示方法
- ・ 教育目標と学位授与方針との整合性
- ・ 学位授与方針における修得すべき学修成果，その達成のための諸要件等の明示

###### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，短期大学士課程の教育目標は，学生要覧に記載してある。また，短期大学を含む学部のホームページ（資料4-1-1）の「教育情報」の項目において「学部の特徴—教育の考え方」として，「教育コンセプト」を明示し，さらに「教育研究上の目的について」の項目において課程における教育目標を記載している。また，同じくホームページ（資料4-1-1）において「入学者受入れ」，「教育課程編成・実施」，「学位授与」の3つのポリシーを明示し，教育目標と学位授与方針との整合性をはかっている。さらに修得すべき学習成果については，学位授与の方針に明示してある。

##### 2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

###### [評価の視点]

- ・ 教育課程の編成・実施方針の策定とその明示方法
- ・ 教育目標・学位授与方針と教育課程の編成・実施方針との整合性
- ・ 科目区分，必修・選択の別，単位数等の明示

###### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針については，短期大学を含む学部のホームページに明示してある。すなわち，ホームページでは「教育課程編成・実施」のポリシーは「入学者受入れ」と「学位授与」のポリシーとともに明示し，教育目標と学位授与方針との整合性をはかっている。また，「履修モデル」を明示し，学習支援の一助とし，体系的な教育課程の編成について示している。さらに，科目区分，必修・選択の別，単位数等については，学生要覧に記載するとともに，授業計画（シラバス）に明示されている。シラバスは短期大学を含む学部のホームページに掲載されていることから，自宅においてもその内容を確認することができる（資料4-1-1）。

3 教育目標，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が，大学構成員（教職員及び学生等）に周知され，社会に公表されているか。

[評価の視点]

- ・ 学内への周知方法とその有効性
- ・ 社会への公表方法とその適切性

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，教育目標については，短期大学を含む学部ホームページや学部発行の学園ニュースなどを通じて大学構成員(教職員及び学生等)に周知されている。教育目標に加えて，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針については短期大学を含む学部のホームページの「教育情報」の項目に記載されている。学部のホームページは，特に多くの受験生が閲覧し，本学部を選択する際の参考に行っていることから，大学構成員（教職員及び学生等）に周知されるばかりでなく，社会に公表されているといえる（資料4-1-1）。

4 教育目標，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

[評価の視点]

- ・ 教育目標，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性を検証する責任主体・組織，検証方法

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，教育目標，学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性については，短期大学を含む学部全体における定期的な検証は行っていないが，3つ（アドミッション，カリキュラム，ディプロマ）のポリシーを設定するにあたり，これらの方針の適切性を議論してきた。

## 2. 根拠資料

4-1-1 学部ホームページ

教育情報 <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/>

## IV-2 教育課程・教育内容

### 1. 現状の説明

1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

#### [評価の視点]

- ・ 必要な授業科目の開設状況
- ・ 順次性のある授業科目の体系的配置とその適切性
- ・ 専門教育・教養教育の位置づけと量的配分の適切性（学士）
- ・ 教育課程の適切性を検証する責任主体・組織，検証方法

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、必要な授業科目については適正に開設され、年次ごとに修得するように配置されている。また、授業科目修得の順序性を確保するねらいから、「履修モデル」を作成し、科目の体系化を図っている。また、1年次よりゼミナール科目を設置し、少人数教育を徹底しているとともに、スタディスキルズに関連する内容を設け体系的な履修指導体制を構築している。

2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

#### [評価の視点]

- ・ 教育課程の編成・実施方針と教育内容の関連性
- ・ 学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学士・短期大学士）
- ・ 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容の実施状況（学士・短期大学士）
- ・ 入学前教育の実施状況（学士・短期大学士）

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、教育課程の編成・実施方針に基づき、短期大学学士課程に相応しい教育内容を提供している。また、高大連携に配慮した教育内容としては、学習支援センターにおいて学習の相談を行っているとともに、生物と化学の補習授業を平成23年度より開設した。入学前教育については、通信添削方式によるDVD教材を用い、推薦入学試験合格者に対し実施している。また学部で開講している基礎専門科目の「キャリアガイダンス入門」と「キャリアガイダンス概論」を聴講させ、キャリア教育の構築をめざしている。

## **2. 将来に向けた発展方策**

### **1 効果が上がっている事項**

#### **〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎では、学習支援センターにおいて学習の相談を行っているとともに、平成23年度より開設した生物と化学の補習授業は高大連携の授業として有効であり、効果が上がっている（根拠資料4-2-1）。

## **3. 根拠資料**

4-2-1 リメディアル授業の資料

## IV-3 教育方法

### 1. 現状の説明

#### 1 教育方法及び学習指導は適切か。

##### [評価の視点]

- ・ 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
- ・ 履修科目登録の上限設定，学習・学修指導の充実
- ・ 学生の主体的参加を促す授業方法
- ・ 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導の実施状況（修士・博士）
- ・ 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習・学修指導（専門職）

##### <1> 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，教育目標の達成に向けて，講義・演習・実験等が実施され，平成22年度から開始したカリキュラムにおいては，従来2年次に開講していた「フィールド科学実習」を1と2年次に変更・設置した。このことにより初年次からフィールド教育の実践を可能にした。同時に，それぞれの学問の進展やカバーする学問分野の多様化に対応するべく科目も設置するとともに，生物資源科学部開講科目を最大20単位まで修得することができるようにしたため，学部への編入学への動機付けと編入後の学習が円滑に行えるようになった。学習指導の充実を計るために，履修科目登録の上限設定を平成25年度入学者から実施する。1年次から研究室には配属し，少人数制のゼミナール形式を行い，主体的参加を促す授業方法として，きめ細かな指導を行っている。

#### 2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。

##### [評価の視点]

- ・ シラバスの作成と内容の充実
- ・ 授業内容・方法とシラバスとの整合性，及びその検証方法

##### <1> 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，シラバスの作成と内容の充実については毎年見直しを行っている。授業回数ごとの時間の内容記載の充実と，学習目標や成績評価基準の記載の徹底化により教員ごとの内容の多寡は少なくなり充実した。そして，授業内容・方法とシラバスとの整合性が計られている。しかしながら，この整合性の確保については，各教員に依存し，短期大学を含む学部での検証は行っていない。

#### 3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

##### [評価の視点]

- ・ 成績評価方法及び成績評価基準の明示
- ・ 成績評価方法及び成績評価基準の公正性・厳格性の確保
- ・ 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
- ・ 既修得単位認定の適切性

#### 〈1〉 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、厳格な成績評価、すなわち評価方法や評価基準は、科目ごとにシラバスに明示してある。単位制度の趣旨に基づく単位認定方法としてGPA制度を採用しており、これに基づき単位認定が厳正に行われ、結果として単位認定の適切性及び公平・公正な成績評価が行われている。また、既修得単位の認定についても学則を前提にした申し合せや取扱要領に基づき、適正かつ厳格な単位認定が行われている。

#### 4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

##### [評価の視点]

- ・ 教育成果の検証方法及び検証結果を教育課程や教育内容・方法に結びつける方策とその有効性

#### 〈1〉 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的研修やその研究を実施し、その結果は教育内容や方法の改善に結びつけている。学生による授業アンケート（資料4-3-1）は、各教員あたり少なくとも1科目に対して行われていて、その結果は集計後教員へはフィードバックされている。しかし、現在はこれらの結果に基づく組織的な検証は行っていない。

## 2. 点検・評価

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、平成22年度から開始したカリキュラムにおいては、従来2年次に開講していた「フィールド科学実習」を1と2年次に変更・設置した。このことにより初年次からフィールド教育の実践を可能にし、教育目標の達成に有効であり、効果が上がった。

### 2 改善すべき事項

#### 〈1〉 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、学生による授業アンケートを行っている。しかし、現在はこれらの結果に基づく組織的な検証は行っていない。

### **3. 将来に向けた発展方策**

#### **1 効果が上がっている事項**

##### **〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎では、生物資源科学部開講科目を最大20単位まで修得することができるようにしたため、卒業後の学部への編入学への動機付けとなり、効果が上がった。

### **4. 根拠資料**

4-3-1 授業アンケート



## IV-4 成果

### 1. 現状の説明

#### 1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

##### [評価の視点]

- ・ 学生の学修成果及び目標達成度を測定するための評価指標の開発とその適用
- ・ 学生の自己評価, 卒業後の評価 (就職先の評価, 卒業生評価)

##### <1> 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では, 教育目標に沿った学生の学習成果を測るための評価指標としては, 4年制学部への編入学がある。卒業生の80%以上が編入学により進学するため, 進学後の評価も含めて解析し, 在校生への教育に結びつけている。

#### 2 学位授与 (卒業・修了認定) は適切に行われているか。

##### [評価の視点]

- ・ 学位授与方針に基づいた学位授与の実施状況とその適切性
- ・ 卒業判定手続きの適切性

##### <1> 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では, 定期試験後の成績登録はWebにより各科目担当教員により行われ, 教務課により各学生の「単位履修表」を作成し, 各学科での確認を慎重かつ厳正に行い, 結果として学位授与基準に基づき, 学位授与手続きは適切に行われている。

### 2. 点検・評価

#### 1 効果が上がっている事項

##### <1> 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では, 定期試験後の成績登録はWebを利用して行われるため, 事務手続きの時間的な削減は達成され, 学位授与手続きが適切に行うための確認等に対応でき, 効果が上がった。

#### 2 改善すべき事項

##### <1> 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では, 機械的処理が増加したことにより, 処理過程でのミスが発見を含めた確認の必要性が重要視されるので, その方策を設けなければならない。

### **3. 将来に向けた発展方策**

#### **1 効果が上がっている事項**

##### **〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎では、定期試験後のWeb成績登録により、単位修得状況がより早く把握できるようになり、事務的な軽減となり、卒業認定を適切に行うことにつながっている。

#### **2 改善すべき事項**

##### **〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎では、機械的処理が増加したことにより、処理過程でのミスの発見を含めた確認の必要性が重要視されるので、その方策を設けなければならない。

## 基準Ⅴ 学生の受け入れ

### 1. 現状の説明

#### 1 学生の受け入れ方針を明示しているか。

##### [評価の視点]

- ・ 大学・学部・研究科等の理念・目的・教育目標に基づいた学生の受け入れ方針の策定とその明示方法
- ・ 当該課程に入学するに当たり、修得しておくべき知識等、学生に求める内容・水準の明示
- ・ 本学への入学を希望する障がいをもつ学生や社会人、外国人留学生等、多様な学生の受け入れ方針の策定とその明示方法

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、アドミッション・ポリシーは、あらゆる機会を通して公開している。生物資源科学部ホームページの「教育情報」には、短期大学部生物資源学科の入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)を明示して周知している。学科の教育研究上の目的も公開しており、これによって求める学生像と、その育成目標も明示している(資料5-1)。

入学するにあたり習得しておくべき知識等の内容・水準を知らしめる方法として、推薦入学合格者には、入学前教育として推薦図書の提示や、過去の試験問題解説などを課している。また、学科シラバスを公開しており、その中で事前に習得しておくことが好ましい知識を明記している。

本学科は、理系で実験実習が多いことから、障がいのある志願者には、受験前に「事前協議」を行っている。事前協議とは、志願者及び保護者(高校の担任が同伴する場合もある)に本学部まで来校してもらい、学科における実験実習科目の内容などを志望学科の学科長・学務担当(入試管理委員長・教務課長・入試担当者が陪席)から詳細に説明して、障がいが入学後に当該科目の受講が可能か否かを当人に判断してもらい、志願者とその保護者及び学科長の3者が、受講可能と判断される場合に限り受験を許可している(合格した場合は入学を許可する。)

#### 2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。

##### [評価の視点]

- ・ 学生の受け入れ方針に基づいた学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
- ・ 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、学生の募集方法・入学者選抜方法は、生物資源科学部ホーム

ページの「短期大学部生物資源学科」に明記して公開している。

また、短期大学部生物資源学科の学生は、4年生大学への編入学を希望していることから、短期大学部生物資源学科ホームページの「編入学」で情報提供を行って、志願者への便宜を図っている（資料5-2）。

また、入試に関するすべての事案は、入試管理委員会で検討して、最終的には教授会に諮って決定することによって適切性の検証や、選抜方法の透明性の確保を担保している。

<b>3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</b>
---

**[評価の視点]**

- ・ 入学定員に対する入学者数比率及び収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
- ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応の適切性

**〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎では、新入生の収容定員は、募集定員の1.00に設定し、定員不足を来さないように入試を行っている。入学試験の制度・実施要項などは全て生物資源科学部と同様で、生物資源科学部の11番目の学科的な位置づけで入試を実施している。

<b>4 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</b>
--

**[評価の視点]**

- ・ 学生募集及び入学者選抜について検証する仕組みの確立とその適切性

**〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎では、新年度のはじめに、入試管理委員会で前年度入試全般について検証を行っている。

## **2. 点検・評価**

### **1 効果が上がっている事項**

**〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎では、生物資源学科の社会的な評価は高く評価されており、その結果、志願者倍率が約2倍、募集人員充足率110%の学科である。

## **3. 根拠資料**

- 5-1 生物資源科学部ホームページ  
教育情報 <http://www.brs.nihon-u.ac.jp/about/policy/>
- 5-2 生物資源科学部ホームページ  
短期大学部生物資源学科  
[http://www.brs.nihon-u.ac.jp/education/junior\\_college\\_jb.html](http://www.brs.nihon-u.ac.jp/education/junior_college_jb.html)

## 基準Ⅵ 学生支援

### 1. 現状の説明

1 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

[評価の視点]

- ・ 学生に対する修学支援，生活支援，進路支援に関する方針の明確化
- ・ 修学支援，生活支援，進路支援に関する方針の教職員間での共有方法

〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，学内外の各種奨学金への周知を積極的に行い，経済的困窮学生に対する支援を拡大し，また進路支援の充実もはかっている。これらの支援方法については，学生要覧等で明確化している。

また，それらの方針については，教授会をはじめ，学部長の諮問機関である各学科選出の教職員で構成される各種委員会にて共有している。

2 学生への修学支援は適切に行われているか。

[評価の視点]

- ・ 奨学金等の経済的支援措置の適切性
- ・ 障がいのある学生等サポートが必要な学生に対する修学支援措置の適切性

〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，学生への奨学金情報提供は，日本学生支援機構奨学金については4月に説明会を開催し，他の奨学金については学内掲示板，ホームページ，学内放送，教員による呼びかけ等での広報を積極的に行い，学内奨学金は平成26年度実績として，学業成績優秀者1名へ80万円，経済的な理由による修学困難な学生4名へ総額85万円の給付を行った。

また，障がいのある学生はいない。

3 学生の生活支援は適切に行われているか。

[評価の視点]

- ・ 心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮とその適切性
- ・ ハラスメント防止のための措置

〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，学生の生活支援においては，学生の心身の健康保持及び安全・衛生の確保及びハラスメントの防止に務めており，その目標を達成するため保健室，学部学生相談室，教員等との連携を図り，学生の健康管理の一環として，毎年新学期に全

学生を対象とした定期健康診断を実施し9割を超える学生が受診し、健康保持・増進を行っている。学生相談については、相談室に月～金でカウンセラーが2名常駐し日7時間開室している。隣接したフリースペースも月～金でカウンセラーが在室時に開放している。

また、学生に対しては毎年「学生生活 GUIDE」（資料 6-1）、「学生事故防止マニュアル」（資料 6-2）を配付し、種々のトラブル対策法を周知している。

教職員向けにはハラスメント防止のため FD の一環として、定期的に外部から講師を招き講演会を実施している。

平成 26 年度は 12 月 11 日及び 1 月 23 日にそれぞれ「ハラスメントのない、教育・研究・職場環境をめざして」、「学生相談から見た教員と学生」と題し、講演会を開催した。

#### 4 学生の進路支援は適切に行われているか。

##### [評価の視点]

- ・ 進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施状況と適切性
- ・ キャリア支援に関する組織体制の整備
- ・ 関連する国家試験に対する支援体制

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

###### ○進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施状況と適切性

平成24年度は、キャリアデザイン講座（4回、延133名参加）、就職ガイダンス（5回、延4,474名）などを含む77行事を実施し、延23,953名が参加した（人数は短期大学部及び大学院生を含む）。また平成25年度は、就職ガイダンス（5回、延3,645名）などを含む76行事を実施し、延23,853名が参加した（人数は短期大学部及び大学院生を含む）。また平成26年度は、キャリア支援ガイダンス（3回、延432名参加）などを含む103行事を実施し、延22,988名が参加した（人数は短期大学部及び大学院生を含む）。

###### ○キャリア支援に関する組織体制の整備

キャリア支援は正課の選択科目「キャリア・デザイン入門」（1年生対象）、「キャリア・デザイン概論」（2年生対象）を開設し、全在籍学生の過半数が受講する中、これを補完する支援活動として就職指導課（課長1名、課員5名、臨時職員1名、派遣職員3名）が担当し、「キャリア・進路支援講座」を2年生を主対象に展開している。また併設の就職資料室において個別に学生の就職指導に当たっている。

###### ○関連する国家試験に対する支援体制

一般職試験などの対策としては、日本大学公務員試験支援センター及び生物資源科学部主催の基礎講座（平成24年度26コマ4名、平成25年度24コマ1名、平成26年度36コマ3名）実施した。

平成24年度から平成26年度の合格者はいなかった。

## 2. 点検・評価

## 1 効果が上がっている事項

### **〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

学生支援は平成26年度から本部からの派遣カウンセラーを1名増員し、よりきめ細やかな対応が可能となった。

また、校友会奨学金の総額を500万円から700万円に増額し、個人への給付額も20万円から25万円へ増額、また、採用枠も25名から28名となった。

進路支援は学部・大学院と同キャンパスにあることにより、各ガイダンス、講座等への参加、及び個別相談コーナーの利用は、同一の環境を整えており、多くの学生が参加、活用している。また、毎年後期後半に短大生に特化したガイダンスを行い、卒業後の就職、大学編入等の複線的進路志望に応じた情報提供を行っている。

## **3. 将来に向けた発展方策**

### 1 効果が上がっている事項

#### **〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎は平成27年度から新入生募集を停止。

## **4. 根拠資料**

6-1 学生生活GUIDE

6-2 学生事故防止マニュアル



## 基準Ⅶ 教育研究等環境

### 1. 現状の説明

#### 1 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

##### [評価の視点]

- ・ 学生の学修及び教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化，教職員間での共有方法
- ・ 校地・校舎・施設・設備に係る大学・学部等の整備計画
- ・ 未使用校舎・講堂等の有効活用計画

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、学生の学習及び教員による教育研究環境整備に関する方針は、年度はじめに生物資源科学部長の施策方針の中に短期大学部生物資源学科の施策方針が含まれており、執行部会及び短期大学部湘南校舎次長によって短期大学部教授会で説明されて明確化している。また、校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画は、学部の次年度予算の編成時に組み込まれ、執行部会で議論し、学科主任・学科長会議及び短期大学部教授会に諮られ、明確化されている。

一方、正規カリキュラム以外での教育環境の整備は、学部と一緒に行われる第一種委員会(学務・学生・研究・企画広報・就職指導)で議論されたものが、執行部会に上程されて検討され、整備計画に反映される。その内容は、研究の進展、社会貢献、研究成果の社会還元などである。

#### 2 十分な校地・校舎及び施設・設備を整備しているか。

##### [評価の視点]

- ・ 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成
- ・ 校地・校舎・施設・設備の維持・管理及び安全・衛生・防犯・防災に関する責任体制の確立とシステムの整備状況
- ・ 施設・設備面におけるバリアフリーの整備状況

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、生物資源科学部湘南校舎内に校地面積4,000㎡、校舎面積3,040.79㎡を有し、学部と共に、学生及び教職員にとって快適で安全性に優れた施設・環境、豊かな自然環境をベースとしたキャンパス・アメニティの向上を重点にキャンパス整備を展開している（「大学基礎データ」表5）。

#### 3 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

##### [評価の視点]

- ・ 図書、学術雑誌、電子情報等の体系的整備及び量的整備の適切性

- ・ 図書館の規模，司書の資格等の専門能力を有する職員の配置状況
- ・ 開館日・時間，閲覧座席数，情報検索設備などの利用環境とその適切性
- ・ 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備

#### 〈1〉 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，図書館資料は大学図書館と共用のため，生物資源学科に必要な学術情報は，十分に整備されている（根拠資料7-1，7-2）。

館内の情報検索設備も大学図書館と共用しており，平成26年度にWindowsOSの問題により利用可能なパソコンの台数は大幅に減少したが，平成26年9月に図書館から隣接する新1号館に学習支援用パソコンが移設され，利用可能となっている。

### 4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

#### [評価の視点]

- ・ 教育課程の特徴，学生数，教育方法等に応じた施設・設備の整備状況
- ・ ティーチング・アシスタント（TA），リサーチ・アシスタント（RA），技術スタッフなど人的配置の適切性
- ・ 教員の研究費・研究室及び研究専念時間の確保
- ・ 研究成果を発表する機会の確保，支援措置の適切性

#### 〈1〉 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，特になし。

### 5 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

#### [評価の視点]

- ・ 研究倫理に関する学内規程・内規等の整備状況
- ・ 研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営状況の適切性

#### 〈1〉 短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，本部で策定されているガイドライン・要項等に基づき，平成24～25年度は，4月に行われる「研究費等の取扱い手引き」説明会及び9月に行われる「科学研究費補助金」説明会において，「研究費不正使用防止」を中心とした内容を加えて説明を行った。平成26年度からは，上記内容に加えて，本部で作成した「研究費不正使用防止ハンドブック」を用いて，全教員，研究費に携わる全職員や大学院生を対象とした「研究費不正防止に係るコンプライアンス教育」を行い，理解度を測る確認書や誓約書の提出も義務付けた（資料7-3）。さらに，平成27年度からは，文部科学省からの通知を踏まえ，本部の内規・要項等が制定・改正され，これに基づき，e-ラーニングシステムを用いた「研究倫理教育」も行われる予定である。

なお，コンプライアンス教育や研究倫理教育を行うに当たっては，学部の研究委員会の下に設置されている「コンプライアンス専門部会」により内容を検討し実施している。

また、教職員だけでなく、平成24年度からは、学生に対しLearning Guideを配布し適宜授業で取り入れることによって研究倫理に関する教育を実施している。

## 2. 点検・評価

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、前項に記載した説明会や教育を行った際の出席率も高く（資料7-4）、今まで以上に研究費の不正使用防止への取り組みに対する認識が高まっていると同時に、研究費使用に当たって、事務局への事前相談も増えている状況である。

### 2 改善すべき事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

今後、研究費の不正使用防止だけでなく、研究活動における不正行為への対応もしていかなければならないことから「研究倫理教育」を徹底することが重要であると考えられる。教職員はもとより学生なども対象となってくるため、どのようにすれば効果的に普及させられるかという大きな課題がある。

## 3. 将来に向けた発展方策

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

教員の研究活動が適切かつスムーズに行われるよう、教員と職員及び職員間における連携を密にし、信頼関係の更なる強化に努めることが重要である。

### 2 改善すべき事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

今後行われるe-ラーニングを使用した「研究倫理教育」について、現時点で実施していないため、将来の方策を記載することは難しいが、学生への普及を考えると、教育部門（学務委員会等）との連携が不可欠であると考えている。

## 4. 根拠資料

- 7-1 2014 LIBRARY GUIDE（日本大学生物資源科学部図書館利用案内）
- 7-2 日本図書館協会/大学・短期大学・高専図書館調査2015
- 7-3 平成26年度コンプライアンス教育資料
- 7-4 平成26年度コンプライアンス教育受講状況報告書

## 基準Ⅷ 社会連携・社会貢献

### 1. 現状の説明

#### 1 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

##### [評価の視点]

- ・ 産・学・官等との連携の方針の明確化
- ・ 地域社会への連携・協力量針の明確化

##### <1> 短期大学部[湘南校舎]

###### ○産・学・官等との連携の方針

産業界、公官庁との連携を促進するため、産・官が募集している各種研究助成金への応募を呼び掛けている。学部内学術研究助成金の応募に当たっては、産・官からの競争的外部研究への応募を義務付けている。またこれら申請書作成の支援を実施している。

###### ○地域社会への連携・協力

併設学部と共通で使用している教育・研究施設があり、キャンパス内や近隣地、全国の各地に設置されている。その活動目的は、教育・研究を補助すること、また広く社会に貢献することにある。

付属農場や演習林、臨海実験所など自然の中での体験学習の場を提供している。博物館や図書館などは、一般の利用にも開放し、来館者数は年間2万人（学内者を含む）を超えている。キャンパス内の研究所や研究センター等では先端的な研究が行われており、その成果の一部は生物資源科学部ホームページ、各種紀要を通じて社会に発信している。

#### 2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

##### [評価の視点]

- ・ 教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動の実施状況
- ・ 学外組織との連携・協力による教育研究の推進状況
- ・ 地域交流事業等への積極的参加
- ・ 社会連携・社会貢献の適切性を検証する仕組みの確立とその適切性

##### <1> 短期大学部[湘南校舎]

###### ○教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動の実施

短期大学部湘南校舎では、地域連携の一環及び教育研究成果の社会への還元として、毎年、地元である六会地区の公民館と共催で「日本大学短期大学部・六会公民館共催講座」を開催している（資料8-1）。

###### ○学外組織との連携・協力による教育研究の推進

学部外に設置されている教育・研究施設が位置する市町村との連携による「地域サミット」が、平成24年度から開催され、特定の地域を対象とした域学研究的な推進を図っている（資料8-2）。また、学部研究者の研究領域に応じて、全国の市町村や地域との連

携を実施されている。

これらの連携の成果は毎年開催している「全国農村サミット」において発表すると同時に、シンポジウムで議論を深めている（資料8-3）。

以上のような域学連携や産官学連携に繋げるために、各研究者の研究内容や業績については、随時、ホームページで公開している。

#### ○地域交流事業等への積極的参加

地域連携に関しては、特に地元である藤沢市関連の様々な行事への参加や地元の小中学校との交流などにも積極的に対応している。主な活動実績は以下のとおり。

- ・ふじさわ産業フェスタへの食品加工実習所による出展。
- ・藤沢市民まつり「湘南ファンタジア」への参加。
- ・湘南新産業創出コンソーシアム主催「創業・新事業進出フォーラム」への参加。
- ・藤沢市と生物環境科学研究センターとの連携によるビオトープ管理者養成講座開催。
- ・生物環境科学研究センターにおける小中学校からの職場体験学習の受け入れ。
- ・生物環境科学研究センター亀井野小学校の総合学習に対する支援。
- ・富士自然教育センターと静岡県富士宮市との連携による不耕作地の積極的共同利用。

## 2. 点検・評価

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

共催講座に関しては、六会公民館で終了後にアンケート実施し、毎年高評価をいただいております。社会貢献に繋がっていると考えている。

### 2 改善すべき事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部（湘南校舎）では、各研究者の研究内容等について、インターネットや印刷物を通じて一般の方や企業の方に周知しているところであるが、さらにホームページ等を充実して、積極的に紹介していくことが必要である。

また、学内研究者による学外組織との共同研究等の実状把握が不足している。

## 3. 将来に向けた発展方策

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

現状において、併設の学部と共同実施している部分も含めて、ある程度地域連携や地域貢献は出来ていると考えられるが、更なる地域連携や産官学連携を目指し、官公庁や企業等との連携・協力及び対話が必要であると考えている。

## **2 改善すべき事項**

### **〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

点検・評価の項目で記載したとおり，本短期大学部が持っている知的財産については，まだまだ紹介できていない部分があるので，インターネットやマスコミ等を積極的に活用した広報活動が，重要であると考えている。

## **4. 根拠資料**

- 8-1 公開講座開催案内
- 8-2 地域サミット開催案内
- 8-3 農村サミット開催案内

## 基準Ⅸ 管理運営・財務

### Ⅸ－1 管理運営

#### 1. 現状の説明

##### 1 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。

###### [評価の視点]

- ・ 中・長期的な管理運営方針の策定と大学構成員への周知
- ・ 教授会の役割の明確化

###### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、学則第4条により教授会を置き、管理運営方針を含む教学上重要な事項を審議している。学部長の諮問機関としての各種委員会を設置し、そこで学部の諸問題について検討し、その結果を学部長が統括する執行部会、学科主任会で協議し、最終的に教授会で審議している。

##### 2 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。

###### [評価の視点]

- ・ 学長、副学長、学部長・学科長及び研究科長等の選考方法の適切性

###### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

生物資源科学部を参照。

##### 3 大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。

###### [評価の視点]

- ・ 事務組織の構成と人員配置の適切性
- ・ 多様化する業務内容への対応策や事務機能を高めるための方策とその有効性
- ・ 職員の採用・昇格等に関する諸規程の整備とその運用の適切性

###### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

生物資源科学部を参照。

##### 4 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

###### [評価の視点]

- ・ スタッフ・ディベロップメント（SD）の実施状況と有効性

###### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

生物資源科学部を参照。

## Ⅸ－２ 財務

### １．現状の説明

１ 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。

#### [評価の視点]

- ・ 中・長期的な財政計画の立案
- ・ 科学研究費補助金，受託研究費等の外部資金の受け入れ状況
- ・ 消費収支計算書（事業活動収支計算書）関係比率及び貸借対照表関係比率の適切性

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，毎年度予算編成及び決算時に，新規事業計画の設定及び既存計画の実行・見直しを確認しつつ，中・長期計画表を策定しており，教育・研究，管理運営に関する短・中・長期計画の下，事業を実施している。特に収入に見合う事業計画と費用対効果を重視しつつ，収支バランスの取れた財政構造の維持に重点を置き計画を策定しており，現在は，入学定員の確保，教育・研究指導体制の強化，財政及び組織基盤のさらなる健全化，創設60周年記念事業をはじめとした教育研究の環境整備に取り組んでいる。

外部資金獲得支援のため設置した研究支援センターの運用はじめ，外部資金獲得状況に連動した成果研究費の効果的配分及び学内研究費の活性化等，申請の拡大を図っている。

平成26年度実績は次のとおりである。

人件費比率41.9% 人件費依存率51.6% 教育研究経費比率47.1%  
管理経費比率3.1% 消費支出比率108.2% 消費収支比率135.0%  
学生生徒等納付金比率81.2% 補助金比率5.8% 基本金組入比率19.8%  
自己資金構成比率88.5% 固定比率105.0% 固定長期適合率104.8%  
流動比率143.0% 総負債比率11.5% 負債比率13.1%

２ 予算編成及び予算執行は適切に行っているか。

#### [評価の視点]

- ・ 予算編成の適切性，執行ルールの特明性及び内部監査の適切性
- ・ 予算執行に伴う効果を分析・検証し，次年度予算につなげる仕組みの確立

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

法人本部の予算編成基本方針に基づき，学部予算編成基本方針を策定の上，編成にあっている。決算の内部監査については，監事及び公認会計士により実施され，毎年度理事長宛に監査報告書及び意見書が提出される。

学部内の営繕管財委員会等で重要度を勘案しつつ審議し，執行部会で決定後予算執行し



ている。また、目的別に予算・決算の内訳表を作成し、各部署・委員会等において執行に対する検証を行っている。

## 2. 点検・評価

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、予算編成に伴う各予算部署との折衝において、徹底的な効果・実績の検証作業を行うことにより冗費の節減を図っている。また、施設設備に関する予算は、あらかじめ管財課に申請し、内容・工事費等を精査することで適正な予算額の計上が図られている。

さらに、学部設置の研究支援センターのサポートにより、研究活動の活性化及び科学研究費補助金、受託研究費等外部資金の安定した獲得が図られている。

### 2 改善すべき事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、中・長期的な財政計画において、大規模なキャンパス整備事業等により、消費支出比率が100%を超える状況が続いていることから、事業完了後の比率改善に向けた具体的対策への取り組みが必要である。

## 3. 将来に向けた発展方策

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、本学部における現在の厳しい財政状況について、教職員に対し会議体等で説明を重ねることにより、改善への具体的取組みに対する意識が高まりつつある。

老朽化した施設設備の更新等、積極的な教育研究環境の整備推進が、学部評価の向上及び受験生の安定的確保の一助となっている。

### 2 改善すべき事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、) 財政状況の健全性・安全性を確保するため、より慎重な中・長期計画の策定及び経費の削減等、具体的取組みにより改善を図る。

## 基準Ⅹ 内部質保証

### 1. 現状の説明

1 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。

#### [評価の視点]

- ・ 自己点検・評価の実施と結果の公表
- ・ 情報公開の内容・方法の適切性、情報公開請求への対応

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、併設の生物資源科学部とともに、学部ホームページ上に教育研究上の基礎情報、修学上の情報を公開している。また自己点検報告書を行い、その結果を公開している。

2 内部質保証に関するシステムを整備しているか。

#### [評価の視点]

- ・ 内部質保証の方針の策定と手続きの明確化
- ・ 内部質保証を掌る組織の整備
- ・ 自己点検・評価を改善・改革に繋げるシステムの確立
- ・ 構成員のコンプライアンス（法令・モラルの遵守）意識の徹底

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、内部質保証システムに関しては、併設の生物資源科学の学務委員会及び短期大学部自己点検・評価委員会において適宜、教育研究の内部質保証に取り込んでいるところである。

3 内部質保証システムを適切に機能させているか。

#### [評価の視点]

- ・ 組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実
- ・ 教育研究活動のデータベース化の推進
- ・ 学外者からの意見の反映
- ・ 文部科学省及び認証評価機関等からの指摘事項への対応

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、併設の生物資源科学部、短期大学部にはFD委員会、自己点検・評価委員会をはじめ教育研究に関する様々な委員会が設置され、また教育情報、研究情報も公表している。文部科学省、大学基準協会からの指摘事項、助言等に対しては迅速に対応するよう改善が図られている。

## 2. 点検・評価

### 1 効果が上がっている事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、生物資源科学部との相互履修制度により、20単位まで取得することができるようになったことから、学生の資質向上に大きく貢献している。

## 3. 将来に向けた発展方策

### 1 改善すべき事項

#### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では、適切な収容定員数の設定や短期大学全体としての中期・長期ビジョンの策定が必要である。

## 重点項目 1 修学継続支援，学修意欲の喚起

### 1. 現状の説明

#### 1 学生の留年，休学及び退学の原因を把握・分析し，適切に対処しているか。

##### [評価の視点]

- ・ 留年者及び休・退学者の状況把握と原因分析を踏まえた対処の適切性
- ・ 留年，休学及び退学への対処について検証する仕組み

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，下級学年においては学級担任，上級学年においては学級担任及びゼミ等の指導教員が，留年，退学等の原因について状況を把握し，アドバイス等を行っている。その過程は経過報告書としてまとめられ，その適切性については事務局執行部会，執行部会，学科主任会，教授会等の会議体で審議・対処している。

#### 2 学修相談体制を整備し，学生の学修意欲の喚起に役立てているか。

##### [評価の視点]

- ・ 入学時及び学期開始時のオリエンテーションにおける履修指導の実施とその適切性
- ・ オフィスアワー等をはじめとする学修相談体制とその有効性

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，新入生を対象に各種ガイダンスを開催している。履修登録ガイダンスでは，履修登録の重要性，単位認定方法，進級条件・卒業要件などについて新入生全員参加のもと，教務課直接説明している。さらに履修登録方法やGPA制度などについてまとめた「履修ガイドブック」を作成し，新入生全員に配布している。

オフィスアワーについては，全教員が授業前後または随時対応することをシラバスで学生に周知している。

また，学習支援センターを開室しており，履修相談，教職，学芸員，奨学金，留学，就職など，幅広い相談に対応している。

#### 3 学業成績不振の学生への支援策を講じているか。

##### [評価の視点]

- ・ 補習・補充教育に関する支援体制とその実施状況の適切性
- ・ 不登校の学生への対応状況

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，留年者に対する支援体制としては，学級担任や研究室指導員により，履修指導や進路相談などを行い，学修面と学生生活面でのきめ細やかな支援を実

施している。補習教育については、学習支援センターにおいて「生物」と「化学」の授業を入学後に実施している。

各年次の履修登録時から学級担任を中心に成績不振者に対し、履修登録未履修者への指導や不足単位数の確認を行い、追試験またはレポート課題、補講による対応を行うなどの個別対応をしている。また毎年10月に実施している父母面談において、授業の出席状況や単位修得状況を保護者に確認していただき、各学期終了前段階における卒業単位不足見込者への対策を積極的に行っている。

<b>4 学生の修学継続，満足度向上のための関係教職員・部署間等の連携・協力体制は機能しているか。</b>
---

**[評価の視点]**

- ・ 相談内容に即した関係部署間の連携・協力体制の整備状況

**〈1〉短期大学部[湘南校舎]**

短期大学部湘南校舎では、学生による教員の授業評価について、授業アンケートを実施し、結果を数値化して、教員へフィードバックし、教員自身による評価の資料としている。さらに、多くの学科で専任教員、兼任教員及び非常勤教員を含めた教育懇談会を開催し、学生の成績から就職までの解析などを踏まえて、教育方法等について議論している。

FD活動を積極的に行っている学科においては、講義のレポートを学科教員全員でチェックするなどにより、所属教員間での学生の教学に関する事項についての共通認識が形成されている。

## 重点項目 2 国際交流

### 1. 現状の説明

#### 1 国際交流に関する方針を明示しているか。

##### [評価の視点]

- ・ 国際的な教育研究交流に関する方針の明確化，その周知方法
- ・ 国際社会への連携・協力方針の明確化

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，特になし。

#### 2 外国人留学生の受入れと学生の海外派遣を促進し，国際交流の推進に努めているか。

##### [評価の視点]

- ・ 海外学術交流協定校・提携校との交流実績
- ・ 留学を希望する学生への情報提供，外国語を学習する機会の提供
- ・ 外国人留学生に対する修学・生活・就職等各種支援体制の整備状況
- ・ 海外の大学における修得単位の認定，英語による授業科目の設置，留学を目的とする休学の取扱などの教育課程上の配慮の適切性
- ・ 日本人学生と外国留学生との交流機会の設定，交流を促進するための取組

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，特になし。

#### 3 外国大学・研究機関との共同研究等を促進し，研究の質向上に努めているか。

##### [評価の視点]

- ・ 海外大学・研究機関との共同研究の実施状況，その成果
- ・ 海外大学・研究機関で研究に従事できる制度や機会の整備状況とその利用実績
- ・ 国際交流事業への積極的参加

##### 〈1〉短期大学部[湘南校舎]

短期大学部湘南校舎では，特になし。